

3/31 2010



Japan Music Education Society News Letter

第39号

No. 39

日本音楽教育学会ニュースレター

目 次

1 会長退任挨拶（吉田孝）	2
2 報告・お知らせ	
2-1 平成 21 年度第 4 回常任理事会報告	3
2-2 編集委員会からの報告（権藤敦子）	6
2-3 韓日合同音楽教育セミナー報告（藤井浩基）	7
2-4 韓日セミナーに参加して（中村智子）	9
2-5 第 41 回大会（埼玉大会）のご案内（第 1 次案内）	10
3 海外トピックス	
3-1 ISME 北京大会のお知らせ（水戸博道）	10
4 事務局より	
4-1 お知らせ	12
4-2 お礼	12

編集後記

1 会長退任挨拶

退任のごあいさつ

第18期 会長 吉田 孝

2年間の任期終了にあたり、副会長、事務局長をはじめとする理事や各種委員会委員の皆様のご尽力、会員の皆様のご協力に深く感謝いたします。ありがとうございました。

一方、選挙に関して一部不手際があり会員の皆様にご迷惑をおかけしました。このことについては理事会より嚴重注意を受けました。また、学会運営の改善に関して、十分にご理解をいただくことができずに課題を残してしまいました。これらの点に関しては深くお詫びいたします。

会長退任後は、一研究者として音楽教育の研究に専心する所存です。今後ともご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



第4回常任理事会（学術総合センター）2010年2月22日

2 報告・お知らせ

2-1 平成 21 年度第 4 回常任理事会報告

日 時：平成 22 年 2 月 22 日（月）14：30～16：30

場 所：学術総合センター 特別会議室 101

出席者：吉田，北山，齊藤，小川，田中，三村，八木（記録），嶋田，津田，
亀山（事務局）

・議事に先立ち，ISME 名誉会長高萩保治氏より ISME 北京大会の案内が行われ，その後，新旧常任理事の引き継ぎが行われた。

【報告事項】

1. 会務報告

・齊藤事務局長より資料に基づいて会務報告があり了承された。

2. 会計報告

（1）第 40 回大会（広島大会）決算報告

・三村常任理事より資料に基づいて決算の報告があり，一部修正の上，了承された。（5 ページ参照）

（2）韓日合同セミナー決算報告

・田中常任理事より資料に基づいて報告があり了承された。

（3）40 周年記念誌会計報告

・津田常任理事より資料に基づいて報告があり了承された。

（4）40 周年記念論文集会計報告

・齊藤事務局長より資料に基づいて報告があり了承された。

3. 各委員会報告

（1）編集委員会

・八木常任理事より資料に基づいて報告があり了承された。

（2）国際交流委員会

・田中常任理事より資料に基づいて報告があり了承された。なお，2 年後の日韓音楽教育ゼミナールの開催については，決定事項ではないことが確認された。

（3）音楽文献目録委員会

・音楽文献目録委員会より，平成 21 年度音楽教育関係文献リスト作成への協力依頼があったことについて齊藤事務局長より資料に基づいて報告があり了承された。

4. その他

・東京学芸大学からの「音楽と教育における伝統と現代」への後援依頼が了承

された。

- ・ニュースレター39号の目次案について、津田常任理事より資料に基づいて報告があり了承された。

- ・今後の予定について、齊藤事務局長より資料に基づいて報告があり了承された。

【審議事項】

1. 第41回大会について

- ・八木常任理事より41回大会の取り組みの報告があり了承された。なお、会場費補助との関係で、大会について埼玉大学の後援を依頼することを了承した。口頭発表申し込み様式については、使用機器の記載等一部修正を行うこととした。

2. 第42回大会候補地について

- ・近畿地区で開催に向けて調整中であることの報告があった。

3. 新入会員及び退会者について

- ・資料のとおり了承した。

新入会員 21 名、申し出退会者 4 名

平成 22 年 2 月 19 日現在、正会員数 1532 名

新入会員（平成 21 年 10 月 2 日以降）

会員番号	氏 名	所 属 先
3666	新藤 浩伸	東京音楽大学
3667	大森 由美子	東海学院大学
3668	細谷 昌代	文教大学（院生）
3669	八代 健志	大阪府茨木市立葦原小学校
3670	横須賀 恵	千葉大学
3671	淵田 陽子	たんぼぼ音楽教室
3672	長谷川 正規	上越教育大学
3673	浅野 麻衣	名古屋大学（院生）
3674	岩井 怜美	富山県立八尾高等学校
3675	星野 英五	名古屋芸術大学
3676	岡島 朱利	ハーピスト
3677	中山 一郎	大阪芸術大学芸術学部
3678	ヘルマン ゴチェフスキ	東京大学大学院総合文化研究科
3679	水上 和子	金城大学短期大学部
3680	石高 久仁夫	福島県福島市立松川小学校
3681	竹内 知佳	新潟市立酒屋小学校
3682	安中 陽子	埼玉県熊谷市立三尻小学校
3683	大西 羊子	兵庫教育大学（院生）
3684	依田 雅子	山梨大学教育人間科学部附属小学校
3685	小山 英恵	京都大学（院生）
3686	平尾 憲嗣	（財）浜松市文化振興財団

4. その他

- ・会員名簿の作成について、次期理事会へ課題として申し送ることとした。

平成 21 年度 日本音楽教育学会第 40 回大会決算報告

収入の部

費 目	金額 (円)	備 考
本部からの準備金	700,000	
ブース・広告収入	175,000	広告 3 社 = 15,000 円 (0.5 万 × 3) ブース 8 社 = 160,000 円 (2 万 × 8)
臨時会員参加費 2 日	288,000	4,500 × 64 名
臨時会員参加費 1 日	60,000	2,500 × 24 名
懇親会費	485,000	4,000 × 121 名 + 1,000
東広島市学術振興補助金	100,000	
収入合計	1,808,000	

支出の部

費 目	金額 (円)	備 考
施設使用料金	161,436	
企画諸経費	30,000	ホームページ制作費
懇親会費用	644,350	アトラクション代金を含む
実行委員・アルバイト弁当代	62,300	700 円 × 89 個
アルバイト賃金	531,800	35 名分
払い込み銀行手数料	315	2 件
招待者宿泊代補助	56,600	
雑費	14,357	
実行委員会支出合計	1,501,158	

収入	1,808,000
支出	1,501,158
事務局返金分	306,842

以上のように報告いたします。

平成 22 年 2 月 19 日
第 40 回大会実行委員会
事務局長 三村真弓

2-2 編集委員会からの報告

編集委員会委員長 権藤敦子

1. 学会誌について

『音楽教育実践ジャーナル』vol.7 no.2（通巻14号）をお届けします。今号のために全国の小中学校にお願いしてご回答いただいた調査、座談会などのエディター企画、各方面からいただいた論考には、学校器楽教育の現状を見据えながら未来に向けた活路を見いだしたいという意気込みがこもっています。また、自由投稿として3本の投稿論文を掲載することができました。ご執筆、ご協力いただいた方々にこの場を借りて御礼申し上げるとともに、会員の皆様にはぜひじっくりとご覧いただければと思います。

『音楽教育学』第40巻第1号（6月発行予定）、『音楽教育実践ジャーナル』vol.8 no.1（8月発行予定）については、研究動向、書評、対談などを含め、一層充実した誌面になるよう編集作業を行っています。

2. 第4回編集委員会（1月24日）の報告

『音楽教育実践ジャーナル』への投稿数が増え、現在は論文等については『音楽教育学』と同様に複数の査読者による意見を参考に掲載審議を行い、誌面にも「論文」と明記しています。しかし、創刊時には「原則的には査読を行わない」雑誌として提案された経緯もあり、会員の間で共通理解がされておられません。そこで、「内容によっては査読者の判断を求めることがある」と書かれた投稿規程の示すところを明確にするために、査読を経ている場合は当該原稿の結果通知文に明記することになりました。

また、『音楽教育学』の内容を充実させるために第39巻第1号より書評対象書を選定し、評者を依頼していますが、書評論文（6ページ以内）の場合には論文としての審査が求められるため、次年度から依頼する場合には書評（2ページ以内）に限ることになりました。

第4回委員会における掲載審議では、研究報告1件について『音楽教育学』第40巻第1号に掲載が決定しました。研究論文は、5件のうち1件を研究論文として再提出、2件は研究報告として再提出いただき、いずれも再度査読手続きを経ることになり、2件は残念ながら掲載不可となりました。また、書評論文1件は書評として再提出いただいた後に再度掲載審議を行うこととなりました。

2-3 韓日合同音楽教育セミナー報告

セミナー日本側実行委員長 藤井浩基

1月9日（土）、10日（日）の二日間、韓国・ソウルの建国大学校産学協同館で、韓日合同音楽教育セミナーが開催されました。日本側 40 名、韓国側 123 名という多数のご参加をいただき、無事終了することができました。ご参加の皆様をはじめ、主催・運営をしてくださった韓国音楽教育学会、ご支援、ご協力くださった日本音楽教育学会の皆様に、まずはお礼を申し上げます。ありがとうございました。

1月4日から、ソウルは記録的な大雪に見舞われました。当日、雪はだいぶおさまりましたが、終日零下の厳しい寒さで、融けずに凍った片栗粉のような雪が残っていました。そのようななか、申込された日本側参加者全員が集ってくださったことは、何より嬉しいことでした。

初日は開会式の後、早速、シンポジウム、ラウンドテーブル、研究発表、ワークショップが行なわれました。今回の特徴は、何よりも発表数の多さでした。日韓両実行委員会では、日本側 16 件、韓国側 15 件の時間割を組みました。発表者には時間短縮を、韓国側には部屋や機材の追加をお願いし、通訳については、日本側も協力して確保に努めました。日本側発表の通訳は、ソウル在住の李知宣さん、朴貞宣さん、太田咲子さん、そして北海道教育大学函館校の裴珉卿さんが引き受けてくださいました。いずれの方も、両国参加者のコミュニケーションが円滑に進むよう、こまやかな配慮で、発表をサポートしておられた姿が印象的でした。

発表は5つの部屋で並行して行なわれ、どの部屋でも立ち見が出るほど熱気を帯びた議論が交わされました。発表のテーマも多岐にわたり、セミナーの全体テーマ「韓日両国の音楽教育の現在と未来」にふさわしい充実した内容となりました。日本側からは、韓国語による発表もあり、研究者の拡がりや層の厚さを感じました。

懇親会は、学内のVIPルームで行なわれ、軽食を共にしながら、各テーブルで親しい語らいが弾みました。

2日めは日曜日で、韓国側参加者の少ないことが心配されましたが、杞憂でした。人口の3割がキリスト教徒といわれる韓国では、日曜の午前中は教会に通う人が多く、日曜を避けたい韓国側と、土日月の連休となる日本側とで、最初の日程調整には手間取りました。開始を10時としたことで、教会からセミナーに直行する人も多かったようです。ふり返れば、このような文化や習慣の違いを乗り越えての開催でした。「ケンチャナヨ（大丈夫）！」という言葉に象徴されるように、韓国側の柔軟で大らかな対応にも助けられました。

両日とも発表終了後に音楽会が開かれました。伝統音楽の教育に定評ある韓

国だけあって、青少年のグループが、パンソリ、サムルノリ、民謡などを、聴き応え十分の演奏で楽しませてくれました。

ロビーでは実行委員会企画で、日韓の音楽教科書を展示しました。日本側は現行の小中高の教科書全種類を、韓国側は新年度から使われる中学校1学年の教科書を展示しました。

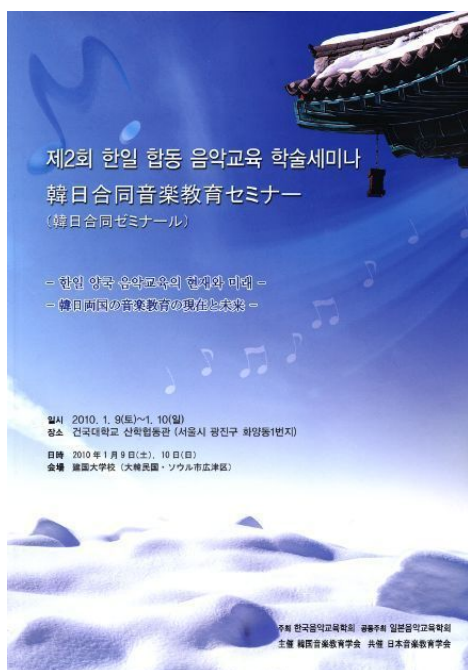
今回は、A4版240頁におよぶ予稿集が作られました。韓国では、報告書よりも予稿集を重視する傾向があるようです。これも文化の違いと言えるかもしれません。事務局で保管しますので、ご覧になりたい方はお問合せください。また簡単ですが、セミナーの様子をホームページに掲載しました。

<http://homepage3.nifty.com/kannichiseminar/>

昨年10月以降、日本側実行委員会を組織し、韓国側との調整や準備に当たってきました。メンバーは、小川容子、近藤真子、村尾忠廣、田中健次、津田正之、味府美香の方々です（敬称略）。

前回2008年に東京で行なわれた日韓合同ゼミナールは、開催1年以上前から周到に準備されました。その経過は当時の島崎篤子ゼミナール事務局長によって、驚くほど克明に記録されていました。その資料が非常に参考になったことは言うまでもありません。ゼロから立ち上げられた前実行委員会の皆様に、あらためて敬意を表します。

2008年日韓、2010年韓日と、相互開催がひととおり終わりました。両学会の交流は確実に深まっています。今後、両学会の交流が、時代に即したあり方を模索しつつ、発展していくことを願ってやみません。



研究発表予稿集の表紙



開会式

2-4 韓日セミナーに参加して

中村智子（西日本短期大学）

ソウルは何十年ぶりの大雪。新春早々、仁川空港に降り立つと一面の銀世界でした。意気揚々と会場の建国大学校へ足を運び、早速論文集を受付でいただきました。素敵な表紙に思わず感動し、目次をみながら、このような場所で発表できる喜びをかみしめていました。

そもそも2008年1月に東京で開催された日韓合同ゼミナールに参加し、そこで韓国の大田市在住の先生と出会ったことが、今回の発表のきっかけとなりました。私が韓国の童謡に関心をもっていることを話すと、資料を送って下さり、「いつか遊びにいらっしゃい」と声をかけて下さいました。幸いにもこの年の7月、訪問する機会を得ました。初めて1人で韓国へ行き、初めて訪れる都市—大田（テジョン）。そこで、人なつっこい地元の学生たちや子どもたちと触れあうことができ、韓国で親しみのある手遊び歌を教えてもらいました。

今回、韓国で第2回合同ゼミナールがあることを知り、要旨を提出し、受理の知らせをいただきました。しかし、それからが大変でした。韓国へ出発する前日には、持参するパソコンに不具合が生じ、準備していた資料が使えないのではと冷や汗をかきました。

いよいよ本番を迎え、発表終了後も日本の幼児音楽教育における様々な質問をいただきました。その中で韓国の先生方の音楽教育に対する情熱をひしひしと感じました。各会場でも両国の共同研究及び研究報告がなされ、これは今後、互いの音楽教育の発展に大きな影響をもたらすだろうと確信しました。両国の言葉が飛び交い、それに伴う通訳者の韓国語の心地よい発音が今でも耳に残っています。

セミナーは発表やシンポジウム、ワークショップにとどまらず、韓国の伝統楽器を使った音楽会が2日間開かれ、大変素晴らしかったです。また、懇親会では初めてお会いする先生方と情報交換ができ、多くの刺激を得ました。さらにロビーには日韓教科書が展示されてあったり、各会場前には温かい飲み物が用意されてあったりと、実行委員会の方たちの優しい心遣いが至るところで垣間見られました。開催までの準備で尽力された両国実行委員会の方たちをはじめ、共に発表者として協力いただいた先生方、参加者の皆様、そして私を温かく励まして下さった通訳の方に心から感謝申しあげます。또 만남시다. (またお会いしましょう。)

2-5 第 41 回大会（埼玉大会）のご案内（第 1 次案内）

日本音楽教育学会第 41 回埼玉大会実行委員会

埼玉大会を次の日程で開催いたします。ご参加をお待ちしています。

日時：9 月 25 日（土）、26 日（日）

会場：埼玉大学教育学部（さいたま市桜区）

今年は 9 月の開催となりました。少し早いですが 9 月最後の土日となります。埼玉大学での開催は 20 周年記念大会以来 21 年ぶりです。いま埼玉のキーワードは「アーバンロハス」。大会の原点にたち帰ってシンプルでロハスな大会をめざします。多くのご発表とご参加を実行委員会一同心よりお待ちしております。

3 海外トピックス

3-1 ISME 北京大会のお知らせ

ISME（世界音楽教育会議）in 北京

水戸博道（宮城教育大学）

ISME (International Society for Music Education) は、数ある国際的な音楽教育団体の中で最も規模が大きく且つ権威のある組織です。2 年に一度、国際大会を開催していますが、一昨年の 28 回大会はイタリアのボローニャ、そして今年の第 29 回大会は、中国の北京で行われます（8 月 1 日～6 日）。

ISME の会議は、本大会とその直前に行われるコミッション・セミナーに分けることができます。コミッション・セミナーは、学校教育、幼児教育、音楽療法、コミュニティ音楽活動など、特定の領域に特化された 7 つの部会に分かれており、それぞれの部会が本大会の約 1 週間前に、本大会の開催都市の近隣で会議を行います。この会議は‘セミナー’と称されているように合宿形式で行われ、それぞれの領域の研究者が寝食を共にして徹底的に研究討議を行います。私が

長年所属してきたリサーチ・コミッションのセミナーでも、H. Price, C. Madsen（アメリカ）や、G. Welch, S. Hallam（イギリス）といったビッグネームが毎回勢ぞろいし、1週間缶詰状態で研究発表と討議が続きます。

コミッション・セミナーが研究色の強い会議であるのに対して、本大会は実践的な発表が多く、音楽教育に関するさまざまなトピックが、研究発表、シンポジウム、ワークショップ、コンサートなどの形態で発表されます。たとえば、最近特に充実した発表が多いワークショップでは、アフリカ、アジア、南米などの音楽や、ジャズ、ポピュラーといったさまざまなジャンルの音楽を体験することができます。そして、これらのワークショップの多くは、明確な教育実践の場を想定して組み立てられており、さまざまな音楽の学校教育への導入に関して多くの示唆を得ることができます。

大会期間中、昼夜問わず行われるコンサートも ISME の目玉の一つといえるでしょう。これらのコンサートでは、さまざまな国の子どもたちの演奏を聴くことができますが、興味深いのは、その演奏の先にそれぞれの国の音楽教育に対する考え方や姿勢が見えてくる点です。ISME の本大会は、世界の音楽教育の潮流を、言葉だけでなく音楽そのものを通して一望することができる貴重な1週間なのです。

残念ながらコミッション・セミナーと本大会での発表申し込みはすでに締め切られ、応募者は採否の連絡を待っているところです。しかし、ISME の会議はコミッション・セミナーと本大会ともに、参加するだけでも十分価値のある会議です。本大会への参加登録は ISME ホームページから行うことができます。参加登録を行うには、まず個人会員であることが条件で、個人会員の登録が有効になるまでに約1週間かかります。大会参加登録はこの後におこないますが、参加費は登録が早いほど安くなっており、3月15日までに登録すると us \$ 320、5月15日までだと us \$ 390、そしてこれを過ぎると us \$ 540 に跳ね上がります。コミッション・セミナーへの参加は、言葉の問題などから、参加に踏み切るにはなかなか敷居の高い面があるかもしれません。しかし、まずはオブザーバーとして参加することが可能なコミッションもあります。参加方法は、ホームページに公開されている各コミッションの委員長に問い合わせるとよいでしょう。

4 事務局より

4-1 お知らせ

- 1) 平成 22 年度 第 41 回大会は、平成 22 年 9 月 25 日 (土)・26 日 (日) に、埼玉大学にて開催予定です。早めに予定に組み込んでいただくようお願いいたします。
- 2) 「平成 22 年度 第 41 回大会研究発表応募要領」を同封します。大会開催日が例年より早いため、発表応募締切は平成 22 年 6 月 1 日となっています。締切厳守ですのでお気をつけください。
- 3) 「平成 21 年度 音楽教育関係文献リスト作成へのご協力をお願い」を同封します。申請される方は締切厳守でお願いします。
- 4) 新年度の「会費納入のお願い」の文書を同封します。内容をご確認の上、平成 22 年 4 月末日までに振り込みをお願いします。なお、今年度までの会費未納の方は、至急振り込みをお願いします。2 年間滞納しますと自然退会となり、原則として 2 年間は再入会できなくなりますのでお気をつけください。
- 5) 住所変更された方は、学会事務局に FAX または E メールでお知らせください。
- 6) 最新の情報を学会ホームページに掲載しています。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jmes2/>

*今年度も事務局業務にご理解ご協力を賜り誠にありがとうございました。

4-2 お礼

2 年間、ありがとうございました！

第 18 期 事務局長 齊藤忠彦

2 年間大変お世話になりました。最初に、学会運営に関わりまして、あたたかいご支援、ご理解を賜りました学会員の皆様お一人お一人に御礼申し上げます。そして、より魅力的な学会づくりのために膨大な時間を費やし、精力的にご尽力いただきました吉田会長、北山副会長をはじめとする常任理事および理事、各委員会委員の皆様、ならびに若くて有能な事務局スタッフの皆様に御礼申し上げます。

この 2 年間、事務局という仕事に関わらせていただき、学ばせていただいたことがたくさんあるのですが、ここでは二点ほど紹介させていただきます。

まずは、日本音楽教育学会という学会の歴史の重さを改めて実感したという点です。昨年 9 月に、学会誌等の資料を長年保管してあった倉庫の整理をさせ

ていただく機会がありました。学会で発行してきた学会誌や書籍、資料などには、各々の時代における最前線の研究成果がずっしりと詰まっており、それらの冊子を手にした時、当時編集に携われた方々の熱い思いや願いが伝わってくるようでした。本学会の歴史を築いてこられた先輩方への改めての敬意を表さずにはいられない瞬間でした。

二点目は、学会とは学会員お一人お一人の「誠意」によって支えられているという点です。学会というものは、実際には目にみえる器が存在しないものです。たとえば、学校に勤務している人ならば、学校という建物（器）があるので、通勤して学校に居るだけで所属感を意識することができるものです。学会にはそのような器がないということです。しかし、この2年間を通して、目には見えないのですが、歴史の上に聳え立つ巨大な器を感じるようになりました。

平成20年度の主な出来事を振り返りますと、夏期ワークショップや国立大会の開催、事務局の移転、平成21年度は、広島大会や韓日音楽教育セミナーの開催、40周年記念論文集や40周年記念誌の発行、選挙の実施、そして、『音楽教育学』や『音楽教育実践ジャーナル』、『ニュースレター』の発行などです。これらの事業を支えてくださった理事や各委員会の方々のお仕事ぶりは、そのすべてが誠意に満ちあふれたものでした。そして、これらの事業のすべてを成功裏に終了することができたのは、大会等で口頭発表をしていただいたり、参加していただいたり、論文に投稿していただいた方々の学会への熱い思いや願いがあつてこそのものでした。学会というものは、学会員お一人お一人の誠意に支えられ、目には見えない器をつくり、相互に磨き上げ、より魅力的なものにしていくものであることを学ばせていただきました。

最後になりますが、本学会がますます発展することを心よりお祈り申し上げ、退任のご挨拶とさせていただきます。2年間、ありがとうございました！

……【編集後記】……

春は別れの季節、旅立ちの季節、出会いの季節などと言われます。私たちも毎年、多くの教え子や同僚との別れと出会いを繰り返してきました。またいつでも会えると思つていても、例えば同期生が全員揃うことはめったにありません。古い資料や写真を整理しながら、一期一会を大切にしながら、と改めて感じておりました。

本号は現役員による最後のニュースレターとなりました。この間、玉稿を寄せていただいた会員の皆様、ご愛読いただいた会員の皆様に心から御礼申し上げます。

また今後ともニュースレターをご愛読いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

(津田正之、北山敦康)

.....

<平成 20～21 年度 日本音楽教育学会役員>

会 長：吉田 孝

副 会 長：北山敦康

常任理事：齊藤忠彦（事務局長），嶋田由美・津田正之（総務），田中健次（会計）
小川昌文・杉江淑子・三村真弓（企画），八木正一（編集）

理 事：尾藤弥生（北海道），降矢美彌子（東北），佐野 靖・筒石賢昭
坪能由紀子・藤沢章彦・本多佐保美（関東），新山王政和（東海）
安田 寛（近畿），吉富功修（中国・四国），岩崎洋一（九州）

会計監事：奥 忍・今川恭子

事 務 局：亀山さやか・山本由紀子・徳山菜央・光平有希

<日本音楽教育学会事務局>

【事務局本部】

所在地：〒184-0004 東京都小金井市本町 5-38-10-206

日本音楽教育学会事務局

TEL&FAX 042-381-3562

E-mail onkyoiku@remus.dti.ne.jp

私書箱：〒184-8799 東京都小金井郵便局私書箱 26 *郵便物は私書箱へ

開局日：月・水・金 10:00～16:00

【事務局編集担当】

所在地：〒739-8524 広島県東広島市鏡山 1-1-1

広島大学大学院教育学研究科初等カリキュラム開発講座

権藤研究室気付 日本音楽教育学会事務局〔編集担当〕

E-mail jmesedit@hiroshima-u.ac.jp